
ユーザー企業の今、 これから

2011.5.31 E-AGILITYカンファレンス2011

協和発酵キリン株式会社

情報システム部 中山嘉之

ERP導入後の最大の課題

KYOWA KIRIN

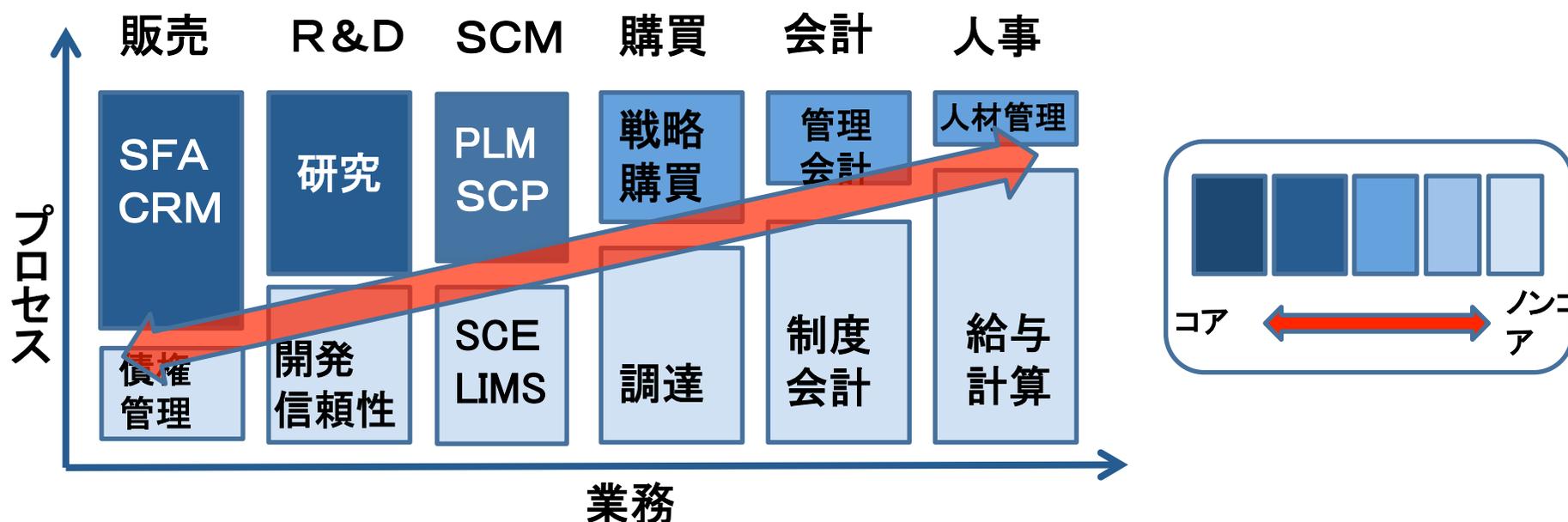
- 1990年代後半～今日まで、大企業におけるERP、中小企業におけるパッケージの導入(数億～数十億)が一段落
 - 早い企業では2、3回目、遅い企業でも初回のVUPを迎える
- ERP/パッケージ導入は、社内における業務プロセスの標準化や財務処理統制の強化といった、主として経営ガバナンスの向上という効果をもたらした
- しかし、“事業競争力強化”には未だ十分に貢献できていない
 - 理由:パッケージ導入はSCM、財務会計といったセオリーの確立したモデルには適するが、ユーザ企業のオリジナリティ溢れる分野には、アドオン・カスタマイズが膨れて不向き

業務システムのコア／ノンコア

- 企業収益の源泉でありかつ、“XXを科学する”ことが難しい（**=企業のオリジナリティを形成する**）領域をコアシステム、そうでないものをノンコアシステムと位置付け

➤ XX: セールスノウハウ、研究自体、マネジメント手法、計画立案など

＜当社の例：業務＋プロセスでコア／ノンコアを分類＞



新たな“手組み2.0”へ

KYOWA KIRIN

- 前頁の“科学することが難しいシステム”へは、パッケージ・システムの適用は難しい⇒手組みで構築することになる
 - SFA(営業支援システム)、生産制御系、マネジメント、計画系等
- これらのシステムの特徴と解決策は？
 - これといった普遍的セオリーがない！
 - システム要件(HOW)は手探り
 - ⇒方法論としては要求開発がフィット！
 - 試行錯誤によりシステムを早く安く開発
 - ⇒手法はアジャイルが必然！ ⇒環境はクラウドが早い？
 - よく変わるビジネス戦略に振りまわされる！
 - メンテナビリティが極端に良い必要あり
 - ⇒PG管理は全てクラウド環境側で！
- 手組み2.0(造語)は、要求開発＋アジャイル(＋クラウド)？

当協議会への期待

KYOWA KIRIN

- ビジネスニーズとシステム製造の距離を縮めること
 - ユーザ企業側はシステム製造の物作りの現状を知る！
 - 開発ベンダーはユーザ企業のビジネス課題にコンシャスに！
 - ユーザ企業システム部門と、開発ベンダーが出会うこと
 - 日頃、お付き合いのあるSIerだけでなく、もっと広範囲に知る
 - 本当に欲しいシステムが構築できる日が来ること
 - ビジネス課題解決へ向けシステム開発の原点回帰
 - IT-SEEDSをふんだんに取り入れた新しいシステム
- ⇒ 重厚長大になりすぎたシステム開発サプライチェーンを
よりシンプルでフラットな調達モデルに！

KYOWA KIRIN